

生活科部会

研究主題 子どもが生き生きと活動するための教師の支援の在り方

1 主題について

昨年度に引き続き、児童の主体的な活動を促すための手立ての在り方を研究するため、気づきの質を高める支援の在り方を中心とした授業作りをめざし、本主題を設定した。

2 今年度の取組

月 日	実践内容	月 日	実践内容
4月11日	第1回総合研究会 研究主題設定・年間計画作成	8月22日	指導案検討会（桂城小学校）
7月11日	交流授業（上川沿小学校）	10月31日	第2回総合研究会 授業研究会（桂城小学校）

3 研究内容

(1) 授業研究

- ・期 日 平成25年10月31日（木）
- ・単元名 2年「みんないっしょに」～にこにこ大きくせん～
- ・会 場 桂城小学校
- ・授業者 板垣 友子

① 授業者から

・児童が家庭でやってみた仕事についてお互いに教え合うという時間であった。最初に全体にモデルを示して紹介したが、グループ活動では一人では発表しづらいと考えられる児童を指名して授業者と一緒に紹介する形を取った。グループ活動では一言も話さない児童の説明が終わるまでは、そのグループに付いているようにした。

・本時の中で、全員分の仕事の紹介を見取ることができなかったが、評価に関しては、前時と本時のシートから交流し合う姿や自分についての気づきについて、指導案にあるような児童の姿が見られた。

・今後の計画としては、やってみたいという児童の思いを大切にしながら、家族のにこにこをもっと広げることができるよう「にこにこ大作戦パート2」に取り組みたい。

② 協議

・本時のめあてが、「おしえようくらべよう」と短くはっきりしていたので、児童は今日何をすればよいのかが、とてもつかみやすかったと思う。

・シートに書く観点が吹き出しに添えられていて、記入する手掛かりになりとてもよかった。

・グループ活動で発表し合うことはできるが、児童同士で質問し合えなかったり、よいことをシートに書いていても拾えなかったりする。先生が全てのグループを回るのは難しい。活動の前に、先生が児童の気持ちを上手に引き出して紹介させたのは効果的であった。

・児童が家族から聞いてきた仕事のこつをお互いに伝え合うことができれば、やり方だけでなくポイントにも注目して、児童同士の話し合いに広がりが出たのではないかと。

・気づきの質を高めるために、話し合いの話し型の中に自分の仕事と比べる視点や仕事のポイント



【アイロンがけを紹介】

- ト等についての順番があると、シートをまとめる活動にもよりつながったのではないか。
- ・グループ内でのよい気付きや、仕事の楽しさに触れているよさを全体に広げるために、よいグループをもう一度みんなの前で紹介すると次の活動への意欲が更に高まると思う。

(2) テーマ研究《人と関わる力を育て、気付きの質を高める支援の在り方》…各校の実践紹介

- ・学校行事や他教科との関連を意識した単元計画や、児童の意欲を引き出す教師側の声掛けを行った。
- ・ペアやグループでの活動を通して会話が生まれ、地域の人との触れ合いが次の活動への意欲を高めた。
- ・体験が発見を生み、児童の視野を広げた。常に相手意識をもって活動に取り組んだ。
- ・作っては試すサイクルを繰り返すことで、一つの気付きから関連付けられた気付きへと高まった。



【私の家では、こうやってたたむよ】

(3) 指導助言（小玉 リツ子 指導主事）

- ・生活科は、一人一人を対象にして「自分自身」にスポットを当てていく教科であるが、本時の授業や実践紹介でそのことが考慮されていた。
- ・具体的な体験無くして学びはない。家庭での具体的な体験の中で思考し、授業で振り返ることにより気付きが自覚される。気付きを生み出すために体験と言語活動を相互に作用させながら、伝え合って気付きの質を高める構成になっていたことがよかった。
- ・家庭でのお手伝いに興味をもたせるためには、その前に自分の家族について見つめさせる時間が必要である。家族が手をかけてくれていることを感じ、お手伝いをしたい気持ちが自然に高まっていく単元構成がよかった。
- ・本時のシートが単元の中で継続して活用できるよう工夫されていたため、児童の学びが連続していった。朱入りのコメントもあり、認め励ますことで成就感につながった。
- ・指導する内容について、児童の思いや願いを引き出して学習活動を必要感のあるものにし、主体的な学び方を育てていきたい。単元によっては具体的な活動の設定に相当工夫が必要なものもある。紹介する活動は、実物、実演、模擬体験などが聞き手も自分事として捉えられ効果的であることが本時の児童の様子から示された。
- ・気付きの質が高まった姿に、無自覚が自覚されること、個々の気付きが関連付けられること、それにより対象に対するふるまいが洗練されることなどが挙げられる。伝え合う場面では、次の活動への意欲につなげる視点をもって気付きの関連付けを図っていきたい。

4 成果と課題

(1) 成果

- ・児童の思いや願いを大切にしながら、期待する児童の具体的な姿を明確にして授業づくりをすることにより、気付きの質が高まっていくことを共通理解できた。
- ・授業研究会には、幼稚園や保育所の先生方にも多数参加いただき、広く意見交流ができた。

(2) 課題

- ・子どもたち同士で伝え合う活動を通して、人と関わる楽しさなど、指導要領：内容の(8)「交流」と関連付けた授業を今後も考えていきたい。